

Eiche

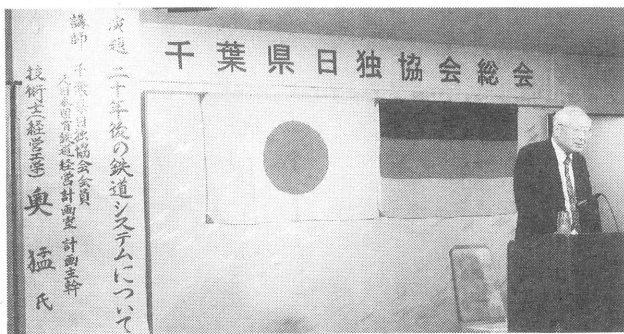
Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

2009 年年次総会開催



講演する奥会員

演題 二十年後の鉄道システムについて
千葉県日独協会会長
大日本国駐千葉経済計画室計画室長
技術士経営室 奥 猛 氏



懇親会参加者の皆さん

5月16日(日)午後2時より2009年年次総会が西船橋「フローラ西船」において37名の会員の参加を得て開催された。平野事務局長の司会により日独国歌斉唱で開会、平尾会長の挨拶の後、綿貫理事が議長に選出され、同議長のもと、議事 ア)平成20年度事業報告、イ)平成20年度決算及び会計監査報告、ウ)平成21年度事業計画、エ)役員人事について、オ)その他個別事業報告3件が審議され、全会一致で承認された。先ず20年度事業報告では、恒例のドイツ軍人追悼慰霊祭(11月)を初め11件の行事が行われたが、大型の個別案件として(a)2009年全国日独協会連合会総会準備、(b)ドイツ視察旅行、(c)ドイツ学生2名研修受入れが報告された。21年度は3回目となる8月のグローバルフェスタに参加の他恒例の行事を予定しているが、大きな行事は一休みである。(次ページへ続く)

二十年後の鉄道システムについて

会員・経営工学技術士 奥 猛
(元日本国有鉄道経営計画室計画主幹)

二十年後には「鉄道ルネサンス」が実現しているであろう。第一に、世界的には石油の再高騰と温暖化対策の進展の為、日本では世界のトップを切って、次世代自動車の出現となっている。しかしハイブリッド車は高効率ながらも依然ガソリンを消費し、電気車は一回の充電による走行可能距離は高々数十キロに留まるので自動車は中長距離には向かない。そこで世界の有力各国は中長距離用には鉄道を利用すべく、新幹線の建設を構想している。第二に、日本は過疎化の進展により、ローカル鉄道の経営は立ち行かなくなっている。さりとて、「自動車では行かないので、ローカル線は存続させるが、経営責任は地方自治体(府県)に移管し、鉄道会社は運営のみ受託する方式を選択せざるを得ないだろう。既に西欧各国はこの方式に移行し、国は自治体にローカル線経営補助金を交付している。我が国のローカル線にはリチウムイオン電池を装着した軽快電車LRT(Light rail transit)を投入したい。第三に、安全対策として地震、竜巻、集中豪雨は予知技術の進歩による緊急速報で対処するであろう。またIT技術の応用により、列車は進行方向の支障情報を得て、安全性を強化出来るだろう。第四に、第二東海道新幹線には、東京〜大阪一時間のリニアと二時間の新幹線のどちらを選ぶか。国民経済的に便益/費用を比較して世に問う必要がなかるか。又、在来新幹線も2+3人掛けを2+2人掛けのコンパクトな形として、高速化などを図りたい。第五は、東京圏の混雑緩和である。東京〜新宿〜三鷹などの新線建設を急ぐほか、主要道路に上記のLRTを市電代わりに復活したい。又通勤定期券を使用度数に対応した制度(度数定期券)に改めて、勤務の多様化に対応すべきである。第六に、在来線と新幹線に使用できる「軌間可変コンテナ電車」を開発して、貨物輸送の近代化を図ることである。

以上

—今後の主な催し物案内—

1. グローバルフェスタ Chiba 2009 (第3回)

日時: 8月23日(日) 10:00~16:00

場所: 千葉大学 けやき会館 テント会場

今回は写真展示、ツール・ペインティング
紹介やソーセージ販売も計画しています。
JR総武線 西千葉駅北口、京成みどり台駅
より徒歩6~7分

入場料: 無料、但し催し物により事前申し込み必要。
詳細は7月5日発行の「県民だより」参照。

2. チター演奏会

恒例の内藤敏子先生によるチター演奏会です。

日時: 平成20年9月5日(土) 12:00~14:30

演奏: チター日本協会会長 内藤敏子先生

場所: 銀座アスター 津田沼賓館

(JR総武線津田沼駅南口前 モリシア・レス
トラン街 11階) 電話: 047-479-2711

会費: 3,500円(ランチ付き)

申し込みは同封のハガキで8月20日(木)迄に。

3. 10月以降の行事詳細は、次号でお知らせします。

◎新企画「ドイツ語を楽しくしゃべる会」

ラジオ講座でお馴染みの清野智昭会員とドイツ人
留学生を囲んで楽しくおしゃべりしましょう。

詳細は別紙参照。

○読者からの投稿歓迎

「Die Eiche」も創刊以来今回で60号となりました
が、これを機会に読者の皆さんからの投稿欄を作る
こととなりました。ドイツ旅行記、趣味の話、ドイ
ツの最新情報、協会活動への提案、特に私達の千葉
県日独協会を将来担ってくれる若い会員を増やす
対策案などテーマは自由です。

○編集委員募集

読者の投稿などで、A4両面では不足する場合
には、増ページも視野に入れ編集委員を募集します。
ご希望の方は事務局までお知らせ下さい。

(1ページより続く)

収支については決算、予算とも会費収入に見合った
健全な運用がなされていることが確認された。

役員人事について今期は改選期でないが、平尾浩
三会長が健康上の理由で暫時休養され、その間宗宮
好和副会長が会長の職務を代行される事となった。
また國枝誠昭副会長も健康上の理由で副会長を退か
れ、橋口昭八常任理事が後任となった。更に松崎寛
記常任理事・事務局長の退任に伴い平野浩康氏(ナー
シングホーム事務次長)が常任理事・事務局長に就
任、水野晴美監事が辞任、新たに日暮英明会員が就
任、顧問の第一空挺団長・陸将補岡部俊哉氏が辞任、
代わって第一空挺団長・陸将補永井昌弘氏が就任さ
れた。

個別案件、(a)の行事は Die Eiche59号で詳細報告の
通りであるが、3日間に亘る行事で延べ35名の会員
の方にボランティアとして協力頂いた。(b)ドイツ視
察旅行は6月デュッセルドルフ日本デーに、現地相
山会員も含め千葉県に協力する形で参加し、その後
ゲーテ街道、ドレスデン、ベルリンを視察、参加31
名、事前の勉強会も併せ大成功であった。(c)8月の
ドイツ人学生研修プログラムは男子高校生、同大学
生各1名を迎え、10日間に亘り実行され、20名のボ
ランティアと千葉県の協力もあり、初めての試みは
成功裡に終了、次回以降の目安を得た。このプログラ
ムはデュッセルドルフの独日協会との交流行事であ
り、来年度2回目を予定。総会に続く記念講演は奥猛
氏に「20年後の鉄道システムについて」と云う演題
でお話をして頂いた。(詳細1ページ下欄)

夕刻の懇親会には第一空挺団団長代理の第一空挺
団第一科長・二等陸佐平井祐司氏及び臼井日出男衆
議院議員も出席され和やかに総会行事を終了した。
この席で若手の参加と若手に魅力ある行事の企画が
話題となり、今年度の課題が提起された形となった。
(行事等別紙総会資料参照)

(副会長 橋口昭八)

2009年デュッセルドルフ日本デー開催

2002年からデュッセルドルフ市の恒例行事となった日本デーが、今年日本人学校に新型インフルエンザが集団発生し一時開催が危ぶまれた中、エルバース市長の宣言により6月13日(土)予定通り開催された。現地情報によれば、好天に恵まれ、市及び近郷近在より85万人が押寄せ、呼物の日本人幼稚園、日本人学校のプログラムは中止となったが、10時間に亘るステージプログラム、ラインプロムナードに並んだテント、ブースでの日本紹介が行われ、遅い日暮れを待って30分間4,000発の花火がライン川を彩った。千葉県は今年もテントを開設、昨年のような千葉県日独協会ツアーの参加はなかったが、千葉県民である現地の平井夫人にお手伝いをお願いした。

千葉県は2005年にデュッセルドルフ市とパートナー交流を開始して以来、経済、文化、スポーツ、農林水産、環境、大学、民間と年々その間口を拡大してきており、今回は特にサッカー、卓球、テニスのスポーツの交流日程が決められた。7月3日より10日までU-17サッカー女子選抜チームが来葉している。

以上